

## 令和2年度「春の特別ラン展」の開催について

濱谷修一・島田有紀子・堀川大輔・磯部実

令和3(2021)年2月20日から2月28日にかけて、「春の特別ラン展」を開催したので、その概要・注目点を記載する。

本事業は、大温室を中心に多くのランを飾り、来園者にランの魅力を楽しんでいただき、一足早い春の訪れを感じてもらうため、何度かの名称変更や若干の開催時期の移動はあるが、毎年ほぼ同じ時期に開催している。本園が、労力的・経費的に最も力を注いで実施している企画の一つである。当該年度は、～春は必ず来る！今、あなたに贈る多彩なラン～と副題を付け、新型コロナウイルスによる沈滞した雰囲気吹き飛ばすような華やかな展示会となることを目指して開催した。

### 実施内容について、例年と異なる点

過去に開催した同企画との違いとして、例年同時期に開催している「フラワーデザイン展」とのコラボが挙げられる。フラワーデザイン展は、例年は園内の展示資料館展示室で開催しているが、当該年度においては大温室の入口ロビーで開催した(写真1)。ラン展との関連性を高め、ランの花の利用方法を普及させるため、フラワーデザイン展の出品者に対し、作品にランを取り入れるように依頼した。その結果、展示場入口の華やかさが一段と高まる効果があった。そのほか、「カレイドボタニカルフレーム作り講習会」、「フラワーデザイン実演会」の実施や、大温室内の2カ所にランの盛花の作成などをフラワーデザイン展の関係者に協力していただいた。



写真1 フラワーデザイン展

また、例年フラワーデザイン展を開催している展示資料館展示室では、「蘭のアート展示」と題し、ランの絵画や工芸品などを展示した(写真2)。



写真2a 蘭のアート展示

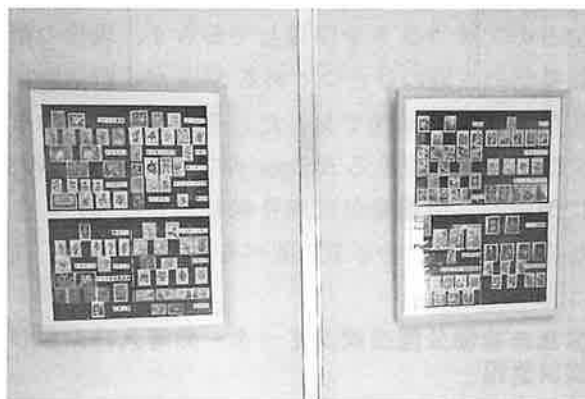


写真2b 蘭のアート展示

大温室内では、ボリュームがあり華やかなランの展示だけではなく、「うんちく」を伝えるような解説展示を例年行っている。今回は、岡山県在住の池田晃氏と元高木農園職員の小島勝也氏の協力をいただき、「シンビジウムの古品種(往年の名花や広島県にゆかりのある品種)の展示」を行った。これについては、別の記事で詳述する。

### 装飾について

大温室内の装飾として、前述の入口ロビーの「フラワーデザイン展」、「シンビジウムの古品種の展示」のほか、温室に入っすぐの広い空間と温室の奥の「古城」と呼んでいるエリアに大規模な飾りを展開した(後述)ほか、常設のラン装飾コーナーのボリュームアップ、ランのトンネル、ランに囲まれてカーブ選手(等身大パネル)と記念撮影するコーナー、広島県・山口

県のランの愛好団体（4団体）や生産者（広島県花卉園芸農業協同組合洋ラン部会）による展示・装飾のコーナーを設けた。愛好団体・生産者からの出品作品を対象に洋ラン品評会を行い、審査の結果グランプリ1点、準グランプリ2点を含む10作品を表彰した。

## 大規模な飾りについて

### ○温室に入ってすぐの広い空間

前述の「フラワーデザイン展」会場のロビーを抜け、大温室内の植栽エリアに入る部分に、宮島の紅葉橋を模した欄干を配置し、欄干の横には、デンドロビウム、ミニカトレヤを使ってモミジをイメージした装飾を行った（写真3）。

使用したラン：シンビジウム（イエロー系）30鉢600輪、カトレヤ・ヤンミンオレンジ100鉢300輪、デンドロビウム・ノビル系ミニ品種（赤紫）100鉢1,000輪、同（イエロー系）50鉢1,500輪、エピデンドラム（オレンジ系）50鉢1,500輪、オンシディウム・オブリザツム20鉢1,000輪。欄干は主材料にポイド管を使用した。

紅葉橋を通り過ぎた正面には、新型コロナウイルス感染の収束を願って、満開の桜（イメージ）



写真3 紅葉橋をイメージした飾り



写真4 桜と花火とアマビエ

の下にアマビエを配置し、後ろに花火を配置した（写真4）。アマビエ（胴体部分）をラン人形（デンファレ、オンシディウム）で製作、周囲はファレノプシスで白波を表現した。満開の桜はピンクのデンドロビウムで製作し、花火はエピデンドラム、オンシディウムで表現し、華やかな空間を創出した。

使用したラン：デンファレ輪挿し（赤紫）1,000輪、オンシディウム切花50本2,500輪、ファレノプシス（白大輪）30鉢300輪、ファレノプシス・アマビリス70鉢700輪、デンドロビウム・ノビル系ミニ品種（ピンク）50鉢5,000輪、オンシディウム・オブリザツム20鉢1,000輪、エピデンドラム90鉢2,700輪、オンシディウム・アロハイワナガ90鉢2,700輪、デンドロビウム・ノビル系40鉢1,200輪、シンビジウム20鉢1,200輪。

### ○温室の奥の「古城」と呼んでいるエリア

ランに囲まれた空間を作り、鏡を設置して、「鏡の間」と題しトリックアートの撮影ができるコーナーを設けた（写真5）。全体としてはピンク色の空間となり、鏡の効果で華やかさが増幅された。

使用したラン：ファレノプシス切花（大輪）400本2,400輪、ファレノプシス切花（中輪）440本2,600輪、デンファレ切花940本4,700輪、オンシディウム切花200本6,000輪、シンビジウム20鉢400輪、ファレノプシス（中輪）20鉢200輪、オンシディウム・アロハイワナガ20鉢600輪

## フクシア温室・展示温室

フクシア温室と展示温室は、第一会場の大温室に対して、第二会場として位置付け、イベントを展開した。



写真5 鏡の間

フクシア温室奥の野生ランコーナーでは、園保有の野生ランを展示した。

展示温室では、例年通り愛好家団体によるランの販売会を行った。「展示温室が主会場の大温室から奥まった場所で、しかも階段やスロープをのぼって高いところに行かないといけなためか、来園者がなかなか来てくれない」ことが以前から課題となっていたため、前年度から改善を目的として「洋ランクリニック」、「洋ラン実演会」、「スタンプラリーの景品引換所」を展示温室で行っており、当該年度も同様とした。

### 所感

前年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、会期中途から規模の縮小を余儀なくされてしまったが、今回は、会期直前に新型コロナウイルスの影響による臨時休園が解除され、その反動か、多くの方に来園していただいた（表1）。会場全体を華やかに装飾するように努めた結果、大温室内の各所でお客様が記念撮影をする様子を見ることができた。

実演会などは新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として参加人数を制限して開催したが、定員いっぱい参加があった。また、スタンプラリーの効果もあってか、展示温室に多くの方に来ていただいた実感があった。

その一方で、展示資料館の「蘭のアート展示」は充実した展示内容だったが、大温室から離れているためか、園全体の来園者の割に、鑑賞して下さった方が少なかったように感じた。来園者の誘導の工夫が今後の課題である。

展示の模型や構造物として、アマビエや橋の欄干等を製作したが、業者委託を行うための仕様書の作成が難しく、直営での対応となった。本園は、いろいろなものを職員が直営で製作する伝統があるが、個々の技術による部分がありにも大きいとともに、どうしても素人的な仕上がりにってしまう点が否めない。今回の場合だと、事前にアマビエの頭部の製作について相談した業者には3Dの設計図の提出を求められた。3Dの設計図を作るためには専門の知識が必要で、その知識がない場合には設計図の作成を委託する必要がある。設計図の内容をすり合わせするために事前打合せの時間が必要なため、日程に余裕をもって準備を始めないといけなことを実感した。

最後になりましたが、新型コロナウイルスの感染が十分には収束していない中、展示や講習会などの実施に協力して下さった方々や、イベントを楽しみにして来園して下さった方々に感謝いたします。

表1 開催年ごとの会期中来園者数の比較

会期	来園者数	備考
2021年2月20日～2月28日	13,526	
2020年2月22日～3月1日	5,613	新型コロナウイルスの影響で2月29日から展示温室が使用できなくなり販売会の場所を移動、実演会やスタンプラリー等を中止
2019年2月23日～3月3日	5,418	
2015年2月28日～3月8日	9,513	
2014年3月1日～3月9日	12,763	

大温室の改修により、2016年から2018年は開催せず